

令和5年度 第2回江南市地域福祉計画推進委員会 会議録

日時：令和5年11月13日（水）午後3時00分～4時30分

場所：江南市防災センター 仮眠待機室・救護室

出席者：会長 柏原 正尚 副会長 石川 勇男

委員 河合 荘太郎 委員 中村 祥

委員 今井 聖治 委員 船戸 正憲

委員 野呂 美鈴 委員 暮石 浩章

委員 高橋 正博 委員 佐藤 豊子

委員 三ツ口 文寛 委員 伊代田 誠二

欠席者：委員 永田 裕美子

事務局：江南市健康福祉部長、福祉課

江南市社会福祉協議会事務局

傍聴者数：0名

1. 会議次第

1. あいさつ
2. 第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について
3. その他

2. 会議経過

1. あいさつ

（江南市地域福祉計画推進委員会会長）

あいさつ

2. 第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について

（会長）

今年度は江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画の最終年なので、本日は推進委員会の下部組織である推進会議・推進部会で協議し、作成された第2次計画案について協議いただきたい。よろしく願います。

次第2の「第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

「第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について」資料1・2に基づき説明

(会長)

ただいまの説明に対して意見、質問等はあるか。

(副会長)

計画は、見やすく分かりやすいのが原点だと思う。目次を見ると、第1章の後に1～6までの項目しか載っていない。前計画の目次では、第1章の1があって、その下に(1)～(3)があって、どんな項目があるのかが見やすかった。今回の計画から新規の、再犯者の状況、成年後見制度の状況なども、目次には書かれておらず、中を見ていかないといけないので、目次に(1)～(10)までを書いてほしいという提案である。

第4章の重層的支援体制整備事業実施計画は67ページにある。これは市長が施政方針でも言われたことで、地域福祉計画の中に、重層的支援体制整備事業実施計画が入るわけだが、目次の第4章のところを見ると、「基本目標1」から「基本目標3」とあって、「重層的支援体制整備事業実施計画」とあるのが、少しびつである。これが重点目標であるなら、もっと大きな印を付けたり、計画の中の位置付けをはっきりして、しっかりやっていくということを出したほうが分かりやすい。しっかり内容を把握して、分かりやすくしてほしい。

(事務局)

貴重な意見、感謝する。今回の計画を作るに当たっての、1つの大きなコンセプトが、一般の市民の方が見ても分かりやすいものということだったので、今、副会長が言われたことは、まさにそのとおりだと感じる。目次の内容について、より細かく記載して、目次からきちんと追えるように書き換えたい。

(副会長)

ビジュアル化の時代なので、分かりやすく、誰でも親しめるようにしてほしい。

(事務局)

重層的支援体制整備事業実施計画の表記についても検討する。装丁については、実際、12月にパブリックコメントを行うが、その段階においては、まだ計画の内容だけを書くことになる。シンプルな形にはなるが、3月末の完成のときに

は市民が親しめるように、表紙の装丁も含めて、より手に取りやすいものを目指していきたいと思う。

(会長)

今のところについては、「第1章 計画の策定にあたって」に、重層的支援体制整備事業実施計画が唐突に出てくるので、位置付けを少し変えたほうがいい。

他に全体を通して、第1章と第2章の現状と課題のところ、これまでご議論いただいた内容をこのようにまとめていただいているということだが、分かりにくい部分や工夫が必要な部分、もう少し付け加えたほうがいいなど、何か皆さん方の日頃の活動等で気になることがあれば願います。

町内会が140ということがあって、調査の時は5地区を中心に分析されていて、圏域では3圏域で対応されているので、140と5地区と3圏域の位置付けが分かりやすいほうがいいと感じた。それぞれ書いてあるものを見ると、市全体の現状のほうが多いので、140というのはあまり意識されないと思うが、住民懇談会は5地区のことが書かれているし、圏域は3圏域が中心になっているので、少し分かりにくいと思う。

全体としては、現状やアンケートの結果を少し政策評価につなげていこうという意図は分かるので、第1次よりも、この辺の意識が強くなっているのはよいと思う。地区ごとの部分をどのように持っていか、一度これでやってみて、その後の第3次計画でどうしていくかということもあるかもしれないが、少し意識しておいたほうがよいと思う。現状のところまででいかがか。

(副会長)

第1章で気になるところがある。第1章の目次の順番だが、「1 「地域福祉」とは」と「6 地域福祉を進める上での江南市の地域の範囲」は、前回の策定の考え方の(1)と(2)である。それを大見出しに格上げしているが、江南市の地域の範囲は、計画の期間より前に考えるべきだと思う。前回のものと比較すると、そういう考え方がよく見えてくる。

(事務局)

並びとして、読みやすいという着眼点の中で、少し前後させたほうがよいという話だったので、検討する。

(会長)

もし可能であったら、140と5地区と3圏域のところとうまく分かれるのかどうか悩ましいという話だったので、今回はこうしたとしても、次にどうやって分

けて体制をつくっていけるか、2次計画を推進していく上で進めていけるとよい。市民意識と体制の研究は少し違うと思うので、課題としては残しておいてもよいと感じる。

他にはいかがか。「第3章 計画の基本的な考え方」、「第4章 施策の展開」について、何かご意見等あればお願いします。

(委員)

65 ページ、「施策の方向性5 再犯防止推進計画」を入れていただいた。現状と課題はこれでいいと思うが、再犯者率が指標になっている。令和4年度が45.9%で、令和11年度の目標値が35%となっているが、21ページのデータを見ると、江南市は人口が10万人なので、犯罪をする人自体が少ない。それを母数にして、そこから再犯者を出すと、年によって非常にばらつきが出てくる。全国と愛知県は若干下がってはいるが、50%に近いということ自体が少し多すぎる。それは別の話として、江南市の場合は母数が少ないので、例えば平成29年は42.8%だが、令和元年は51.6%。ところが令和3年は37.4%と、年によってばらつきが多い。そういう数値を目標に入れても意味があるのかという感じがする。数値目標として出すのはいいが、非常にばらつきが出てくるので、それよりも、どれだけ再犯防止について、みんなが意識を持てたか、そういうアンケート結果が伸びるように等、指標を変えたほうがいいのではないか。

(会長)

今のような話はおそらく出てくるのではないかと思った。他のところも含めて、目標設定することによって、伸びていくような指標を作っていくのは政策としてはしやすいが、抑止するとか、抑えるということについては、実際それが本当にいいのかという内容の話との兼ね合いもあるので、生活保護の廃止世帯数についても同じような状況だと思う。59ページ、生活保護の廃止世帯数が増えるということは、受給者の増減もあるし、本当に必要な方に届いているのか、廃止が目標になってしまうのは、あまり良くないことかもしれないと思う。政策目標を掲げるときは、母数が少ないときは危惧する。

あるいは44ページ、イベントの開催1回を2回にするということも、イベントや講座は、市全体のイベントや講座という意味だと思うが、全体としてはうまくいっている地域の活動があるのか、それとも回数をやっしまえばいいという話になるのか、いろいろなところで皆さんにもう少し見ていただいたほうがいいところがある。チャレンジされるのはいいと思う。部分的に少し大丈夫かとおっしゃっていただいたことを要検討にするのか、目標数を率で出すのか、件数で出

すのか、若干、件数の比較で最終案にされるといいと思う。再犯のところもそうだし、生活保護の廃止世帯数が少し気になった。

他に似たようなことで指摘はないか。これがいいということであれば、説明いただいたほうがいい。そうでなければ、少し項目を変えるとか、あるいは、先ほどのアンケートに追加して、そこのチェックをする等も考えられる。

(事務局)

補足的な話をさせていただく。今回あえて数値目標を設定したのは、年度当初、皆さんに見ていただいた時、全75事業あって、それぞれが文章で書いてあるものを指標としても、達成したのかどうか分かりづらいという話があったので、代表的な方向性が捉えられる1つの指標として数値を取らせていただいた。来年度以降の目標管理については、もちろん数字は出すが、数字を見て単純に可否を判断するのではなく、バックにある経年的な動きがどうなのか、単年で見るのではなく、大きな傾向で見ながら、現状がどうなっているかを見ていただくという使い方にできないかと感じている。特に再犯については、どういった指標がいいか、名古屋保護観察所の方とも相談したが、最終的に、全体目標は再犯者率でというところに落ち着いた。それを基に、皆さんで検討いただければと思う。

生活保護については、そもそもこういった指標について、必要な方に支援が入るかどうか、まず1つであるが、その辺りは重層的支援をする中において、サービスの提供は、受ける方については受けていただく。その上で、自立の支援という中で、生活保護の廃止という形で自立していただくところを数値だけ掲げているので、逆を向かないように、その辺りについてはしっかりと毎年の経年評価の中で、皆さんに協議いただきたいと考えている。

(会長)

回数等、少なくなってしまうとブレが出やすく、政策目標として掲げるのはなかなか大変なところがあるが、とりあえず頑張ってみようというのとはとてもよく分かる。大事なことだと思う。ただ、そのプロセスで、どういうことに取り組んだからこうなったということが見えやすいと、評価もまた変わってくると思う。先ほど言われたように、再犯防止のためにどういう取り組みをしたのかの結果がこういう状況であり、いろいろな犯罪の範囲の中で全部をひとくくりにしていいのかとか、障害のある方や若年者の犯罪が少し防止されるべきだとか、細かくし出すと、そこだけで計画を作らなくてはいけなくなるので、とりあえず、象徴的なものがこれだということは何となく分かる。こういうことを議論いただいと、来年度以降、推進の時にどのようにチェックしていくかなど評価の仕方も、皆さん方と一緒に考えていける、江南市らしい2次計画になると思う。

1次計画では評価が難しかったというのが大きかった。コロナもあったが、地に足が付きにくいというか、何となく、チェックも主観が入りやすいことがあったので、客観的なものを入れようという意図が大きなところで違うと思う。何も無いよりは、こういうものを入れたほうが良いと思うが、どうか。

先ほどの話からすると、委員はこれではないほうが良いということか。

(委員)

母数が少なければ、ばらつきが出るということを理解していただければそれでいい。ただ、他に何か指標にできそうなものがあればと思う。

(会長)

単年度の評価だとそうなりやすいので、前後3年間の平均を見ていくなど、見方や方法はいろいろあると思う。ばらつきがあったとしても、それに基づいて下がってきているところを見ようとか、極端に再犯者率が下がっていても、その前後に、たまたま年末年始だったということによっても上下する。その辺りは、3年単位で少しずつずらしていくことは十分あり得る。そのほうが傾向としては安定しやすいなど、工夫の仕方は幾つかある。このやり方が良いのかどうか、皆さんにぜひご意見いただきたい。

1次計画とは違うということは、皆さんで確認しないといけないと思う。2次計画の方向に関して、皆さんと合意ができれば、この方向で進めていきたいと思う。評価を意識した計画になっているのはいいと思う。

目標数値を掲げてやってみようということについては、ご理解いただけるか。

(委員)

それはいいと思う。

(会長)

パブリックコメントもされるし、今後、そういう見方をもう一度していただければと思う。他の方はいかがか。何かお気づきのことがあれば、願います。

(副会長)

61ページの基本目標(3)に「施策の方向性4 権利擁護(成年後見制度利用促進計画)」と、計画の名前が出ているが、計画の説明がない。計画について何か触れておかないといけないのではないか。

(事務局)

先ほどの重層的支援も含めて、成年後見、再犯防止、重層の計画の話というのは、5ページの「計画の位置付け」にしか書いていないので、その辺りはもう少し触れたほうが良いというご意見だと思う。コンサルとも話しながら、他の自治体の例も踏まえて、分かりやすいところを検討させていただく。

(委員)

今のところは私も変だなとっていて、「施策の方向性4 権利擁護（成年後見制度利用促進計画）」と書いてある。1ページめくると、また「成年後見制度利用」とある。方向性4の下を見ると、高齢者や障害のある人、虐待、DVといった、いわゆる一般的な権利擁護に関するものが出ている。だから、「方向性5」にして成年後見制度を入れて、さらに「方向性6」にして、再犯防止と分けたほうが分かりやすい。なぜ2つ出てくるのか。括弧の中は要らないと思う。

(会長)

付け加えると、65ページには「地方再犯防止推進計画」として位置づけ」と書いてあるので、成年後見制度についても同じように書いておかないと、なぜ急に括弧があるのかという話になると思う。言われたように分けるのか、位置付けとして前半にまとめて書くだけではなく、各項目のところに説明を書いたほうがそれぞれの施策が分かりやすいと思う。項目はあまり重ねないほうが良い。

(事務局)

表記方法について、例えば、61、63ページ辺りの話については、施策の方向性を分けるというよりは、権利擁護は権利擁護という形になる。その中に成年後見制度が1つの施策として入ってくるということになるので、63ページの成年後見制度利用促進計画という位置付けにした上で、61ページの冒頭に少し説明を書きながら、それを踏まえた現状の課題とか、その後、網羅するような形で書いていったほうが分かりやすいと思う。分けるのではなくて、説明を前出しする形で分かりやすくしたいと思う。それを踏まえて、再犯防止推進計画である65ページの表記についても統一感を持った形で、事務局で検討して修正したいと思う。

(会長)

例えば、61ページは「権利擁護・成年～」と併記してはどうか。括弧にしてしまうと意味づけが分かりにくい。タイトルになっている部分には、括弧がないほうが良い。おそらく、指標と行政・社協の取組のところは、現状・課題、指標、そして行政・社協の取組となって、ここだけ2回出てくるので分かりにくいのだと思う。それで、分けてはどうかという意見も出たのではないかな。内容というよ

りは、表記の仕方ではないか。整理ができるのであれば、1つにまとめてもいい。今のことについてはよろしいか。もう少し検討して、分けることになるかもしれないが、この方向性は同じにして、少し表記は分かりやすいように整理されるということで、そちらを検討していただくということである。

73 ページ、「政策目標達成のための評価指標」だが、全体の計画での指標と、この評価指標の位置付けが分かりにくいのと、73 ページは、取りあえず、次の計画のためのニーズ調査も同じ手法でされるということでもいいか。ただ、そうなってくると、今までどおり大量なアンケートを実施されるのか、それとも少しスリム化して人数を多く取れるようにするとか、少し整理するのか。計画推進のためにはお金も掛かる。その辺の予算化も、ここに書いてしまうと、絶対に市民アンケートを行うことになると思うので、それでいいのか気になった。

(事務局)

73 ページの政策目標のための市民アンケートは、第1次計画でも取ったが、地域福祉計画の策定のために、特別に2,000人ないしは活動主体者に対して、個別に実施した。市としては今後も継続したいと思っている。少なくとも、政策目標に関する大きな指針になるものについては、経年的に行っていききたいと思っている。それを踏まえて、会長が言われた、市民の方の答えやすさについては、もう少しスリム化すると回答率が上がると思われるので、十分、考えていきたい。

28 ページに、市民アンケートの配布数や有効回収率等を載せている。現状、市民が43.9%。これはいろいろな行政計画がある中で低下するような世の中だが、少しでも改善するために、項目についても随時考えていきたいと思う。

(会長)

それに加えて、33 ページ以降の地域福祉懇談会の結果をどのように計画の方向性や施策内容に反映されるのか、見えにくいと思う。政策目標達成のための評価指標の中でも、懇談会を絶対行ってまたチェックをすとか、せつかく2つ書いてあるのに、その後、あまり懇談会に触れられていないのもったいない。結構な時間と労力を掛けて懇談会をまとめられていると思うが、今後、どう使うかというのはいろいろあり、個別の話を聞けるのはすごく良いことだと思う。目標達成のために、チェックするということがあってもいいような気がする。そうすると、アンケートと懇談会を行ってきたというのが分かりやすいと思う。

(事務局)

地域福祉懇談会は、市としては継続していききたいと思っている。草の根活動になるので、少しずつ、毎年来ていただくというところは必要だと思っている。

指標の中で、どのような反映がされるか、少し分かりづらくて申し訳ない。

44 ページ、地域福祉に関する啓発イベントや講座等の開催回数があるが、この開催の1つが地域福祉懇談会で、シンポジウムも行っている。シンポジウムと地域福祉懇談会を2大イベントという形で取り扱っているので、2回という形を目標として掲げ、今後も継続していこうと考えている。また、地域福祉懇談会を通じて、社協さんの、地域づくりに取り組まれる1つのきっかけにもしていければと考えているので、そういった指標の中にも今後反映される形で、個別具体的な取組については考えていきたいと思う。

(会長)

44 ページに、分けて、「懇談会」と書くのは厳しいのか。

(事務局)

指標をもう1つ追加するか、表記方法については少し検討したい。

(会長)

ここも、本当は「年1回」から「年2回」だと思うので、それまでに1回した、2回したではないと思う。その辺の表記の仕方が、毎年行うというものか、期間中に1回行うのかによっても違う。先ほどの市民アンケートも、5年間でもう一度実施するのであれば、また行うと書いてもいいかもしれないし、表記をどうするかは別としても、書いてあれば、事務局が引き継がれたとしても、生きてくるのではないか。回数を「やります」という計画が立っていれば、書いておいたほうが、現在、策定に携わっている方たちの思いが入りやすいと思う。

(事務局)

毎年、経過が確認できるものについては、指標として設定できると考えるので、シンポジウムと懇談会を分けると、毎年1回にはなるが、それを目標立てて実施していく形にしていこうと思う。地域福祉に関するアンケートは、6年に1回しかできない形になるので、第4章の中では指標としては設定しにくい。

(会長)

他にいかがか。政策に対して、評価をみんなでチェックしようとか、実際に実施するのかどうかということも関心を持っていただく。あるいは、計画があるのでやるとか、行った結果が反映されるということを、少し意識して計画を見ていただくと、おそらく策定することに意味があるというのが少し増えるのではないか。いろいろな方に関心を持ってもらうための計画にできるといいと思う。

指標のところに「独自設定」と書いてあるが、これは書いたほうがいいのか。

(事務局)

表記について、2～3の表記方法があるのはお気付きと思う。市の総合計画から抜粋したものと、独自設定と、あえて書かせていただいたところについては、内部的な資料として、市の総合計画との関係性が明確になるように、あえて付記しているので、実際の表記の際には削った形で公表したいと思う。

(副会長)

計画を出すとき、市長挨拶があるが、これは要らないというのが私の意見である。顔写真と挨拶は不要で、中身の充実のほうに回すべきだと思う。最近の計画書の中には、これがないものもあるので、これは無しにして、中身の充実と、いろいろなビジュアル的なもので分かりやすくしてほしい。

(事務局)

相談させていただきたい。

(会長)

他にはいかがか。用語解説も、皆さんに分かりやすいかどうかチェックしていただきたい。最近、福祉関係もいろいろ似たような用語が出てきているので、一度聞いただけでは分からない方も多いただろうし、「〇〇計画」「〇〇事業」がたくさん出てくる。しかも、数年たつと変わっていくところもあるので、見ていただいて、説明を変えたり追加したりしたほうが良い部分があればご指摘いただきたい。

一応、今日説明してもらった内容について、推進委員会では少し注文を付けた部分もあるが、おおむねこの方向性でよろしいということでもいいか。

その他について事務局からあるか。

(事務局、社協)

次第5「その他」について説明

(会長)

意見等はないか。

それでは、本日の議題はこれで終了し、進行を事務局にお返しする。

議題終了